

「みんなの一步で、未来づくり大作戦」

令和6年5月1日

小千谷市市制施行70周年記念式典

今から70年前、このまちの未来を想い、小千谷市が誕生しました。

小千谷の歴史は深く、とりわけ江戸時代以降の人々は、日本初の小学校の創設や小千谷縮の技術を鉄工業へと発展させるなど、未来に生きる私たちに、素晴らしい宝を残してくれました。

では、現代を生きる私たちは、未来の姿を見すえて、今、何をすればいいのかという思いを込めて、これからのまちづくりに関するプロジェクトについて、私からのメッセージをお話しさせていただきます。

このプロジェクトには、市民の誰もが、例えば小学生でも理解できる、そして、みんながその気になって一步踏み出し、大きくまちが変わるきっかけとなる、そんな願いをこめて、誰でもわかるような名前を付けました。

少し長くなりますが、どうか聞いてください。

小千谷に住む「私たち」へ
今、どうしても伝えたいこと。

私たちのふるさとのあちこちには、宝物がたくさん眠っています。
ただ、宝物なのに、眠ったままで気づかれていません。

みんなで起こして、磨いて、次世代へ届けてあげたい。そう思うのです。
それができるのは、私たちです。
お子さんからお年寄りまで、それぞれが宝を見つけて磨いていく。
そして、宝物が光り始めた時、小千谷は絶対にイキイキと輝きます。

そのためのプロジェクトは、

「みんなの一步で、未来づくり大作戦」です。

未来をつくるために今を変える、そのためにみんなで一歩踏み出そう、そんな思いを込めています。

まず、まちの現状はどうでしょうか。

小千谷は今、急速に人口が減り続けています。

進学により若者が離れ、赤ちゃんが生まれる数も減り続けています。

このままでは若者がどんどん少なくなり、経済は縮小し、高齢者の福祉や安全を支えきれなくなる。そんな現実には直面しています。

では、もうこのまま救いようがないのか？

消滅してしまうのか？

いいえ。そんなことはありません。絶対に大丈夫です。

なぜそう言いきれなのか。それには「大きな2つの理由」があります。

1つ目の理由は、みんなで未来をつくってきた「小千谷DNA」がすごいからです。

なぜ、この雪深い土地に何千年も昔から、私たちの祖先が豊かに暮らしてきたのか。

歴史を紐解けば、胸が熱くなるような、先人たちの努力と挑戦がありました。

1000年以上前からの農業、麻織物、そしてものづくり。時代に合わせて大胆に、産業の転換を成してきたように。

子どもたちの未来のためにお金を出し合い、日本で初めての公立小学校をつくったように。

雪の降った朝、皆でかんじきを履いて雪を踏み固め、そこを通る誰かのために1本の道をつないできたように。

中越大震災からの復興を、みんなの力で成し遂げたように

一人ひとりにできることから、一歩を踏み出し、未来への挑戦を繰り返してきたからこそ、

歴史や文化にあふれた、暮らしやすいまちとして、歩んできたのです。

「大変なときは、大きく変わるとき」

どんなに厳しい状況におかれても私たちの先人は「大変なときこそ、大きく変わるときだ」という気持ちで、優しく忍耐強く、挫けず、たくましく挑戦することで未来をつくってきました。

その精神が、私たちに、このまちに息づいているのです。

2つ目の理由は、小千谷は「千の宝」に満ちているから。

世界中から愛される錦鯉や、華麗な大花火。小千谷縮や牛の角突き、色とりどりの熱気球。

それだけじゃありません。

山本山の雲海や棚田の風景、そこで作られるコシヒカリ。豊かな歴史と食文化。

活用の仕方に磨きをかけることで、ものすごい価値となる。

そんないっしょにあふれた千の宝が、皆さんの周りにもあるはずですよ。

そして何より、限られた資源の中で工夫を重ねて、美しいものをつくり出す「人の心」もまた、私たちの「千の宝」だと言えます。

未来を構想する「小千谷DNA」と、すばらしい可能性をもった「千の宝」。
いつも、この2つを掛け合わせることで、小千谷は未来の可能性を切り拓いてきました。
みんなで力を出し合えば、必ず「誰もが安心して暮らせるまち」を叶えることができるはずです。

私たちの先人が未来を見すえ、大きくまちを変えてきたように、
今日、この瞬間から、みんなで声をかけあい、その一歩を踏み出してみましよう。

小千谷市長 宮崎悦男